

1 葛西臨海水族園のあるべき姿

(1) これまでの水族園の姿

- 葛西臨海公園内に1989年に開園し、『海と人間の交流』の場の理念の下、世界各地の生き物を展示
 - 国内外の水族館の先導的役割を果たす展示の実現や、学校教育と連携した運営を実施
- ⇒これまでの実績を踏まえつつ、社会状況の変化や施設の老朽化を背景に、新たな水族園像を整理

(2) 新たな水族園像

- 1) 新たな理念 『海と接する機会を創出し、海と人とのつながりを通して海への理解を深める水族園』
- 2) 行動規範
 - 「海への興味・関心を高めることができる場を提供」
 - 「ライフスタイルの転換を促す」
 - 「豊かな海を未来に残す一翼を担う」
 - 「東京湾・海に関する文化・歴史を発信」
 - 「海の未来を考え、行動する人材を育てる」
 - 「海を感じる魅力的な時間・空間を提供」

3) 葛西臨海水族園の機能

- ① 有機的に関わりあう6つの機能 機能を再構築し、全てを有機的につなげた取組へと発展

〈6つの機能〉

①展示・空間演出	②収集・飼育・繁殖	③調査・研究
④レクリエーション	⑤学習・体験	⑥環境保全への貢献

- ② 機能を発揮させるために

- 臨場感・期待感が高まる展示・空間演出
- 持続可能性を重視した収集・調達等の取組・活動
- 幅広い学びの機会を提供 等

- ③ 施設性能について

- 誰もが使いやすく魅力的な施設
- 機能を発揮させるための性能
- 飼育、繁殖等の水族園機能を十分に発揮
- メンテナンス性能の確保
- 環境負荷の低減

- ④ 管理運営にあたって

- インバウンド誘致等、来園者増加の取組
- ICT等の媒体を適切に活用した情報発信
- 様々な組織・団体等との連携強化
- 運営者にインセンティブを持たせた経営

(3) 実現に向けた進め方

- 既存施設とは別に新たに建築する建物に水族園機能を移設
- 既存施設については、水族園機能を移設後、施設の状態等を調査の上そのあり方を検討

2 葛西臨海水族園の新たな姿

(1) 施設概要

1) 展示・空間演出

- 海の生態系をリアルに再現
- ICT等の最新技術の活用
- 物理的・心理的な距離を表す展示テーマ「近い海」「遠い海」の設定
- 人の営みと海との関係性を伝える「ねらい」に沿った展示づくりで、学習効果を向上



- ・様々な角度から楽しめる水槽
- ・ICT等も利用し水中にいるような演出を実現
- ・生き物の美しさを楽しみながら、環境問題も学べる展示

※イラストはイメージ

2) 施設規模

- 学習・体験、バリアフリー等のためのスペースの拡充
⇒現状の使用面積約19,400㎡から**22,500㎡**程度に拡大

3) 施設整備要件

- バリアフリー対応とともに、アクセシビリティを確保
- 様々なニーズに対応できるフレキシブルな計画
- あらゆる空間で海を感じられる演出
- 主要設備の換装等のメンテナンス性能の確保
- 来園者、管理者、生物それぞれの目線で配置等を計画 等



学習・体験スペースのイメージ

(2) 事業費の見込み (10%税込で試算)

- 1) 施設整備費 類似水族園の調査及び見積りや実績等から試算…約**244~276億円**
- 2) 維持管理運営費 施設の規模増及び機器の交換による効率化を想定…約**18億円/年**
- 3) 大規模修繕費 長期修繕計画を立案し、予防保全型の施設管理を実施…約**111億円 (20年間)**
- 4) 入園料収入 施設の規模増及び実績等から試算…初年度238~293万人、**20年間平均178万人**
入園料収入は6億円 (現行入園料700円の場合)~18億円 (入園料2,000円に値上げの場合)
※入園料は、維持管理費や利用者数等からなる原価を基本としつつ、類似施設の入園料を勘案し、設定
- 5) 経営の工夫 展示のリニューアルやバックヤードツアーの充実等による収入の確保、
海水の使用量削減による支出の削減等

3 実現手法

(1) 事業手法

1) 事業手法検討の視点

- ①水族園機能の充実
- ②多様な主体との連携の強化
- ③公的サービスの確保

→来園者にとって魅力的な施設であり続けるために、整備、維持管理運営体制や官民の役割分担を構築

2) 業務分担

- 水族園機能の充実のため、飼育展示、教育、調査研究は根幹の業務として高い専門性を持つ団体が担う
- それ以外の業務は、積極的に民間のノウハウの活用を図る

3) 官民連携方法

- 都立の水族園としての公的使命を果たしつつ、民間のノウハウを活用できる手法を選定
→PFI-BTO方式 (建物の設計・施工・管理) と指定管理者制度 (水族園の根幹に係る業務) の併用

(2) 官民連携の効果

1) サービス面

- 専門性の高い技術の発展
- 来園者サービスの向上
- 誰でも利用しやすい料金設定

2) 財政面

- コスト削減 ⇒施設整備及び維持管理の一括発注による効率化、スケールメリットによる効率化等
VFM (コスト縮減効果) 試算 = 3.1%

(3) 今後のスケジュール

PFI-BTOを活用した場合の想定スケジュール (事業者ヒアリング等を実施し、さらに精査)

- 令和2~3年度 新たな水族園の整備水準の検討、PFIのコスト削減効果検証、PFI法に基づく事業手続き
- 令和4~8年度 設計・工事・開園準備
- 令和8年度 開園

※時期については前後する可能性がある。